

創学舎ニコトス

No.246

「実用英語技能検定について」

創学舎が実用英語検定の準会場として認定され、今年で4年目となりました。毎年合格者人数は増加し、昨年度は三九九名となりました。英検資格取得は次のようなメリットが考えられます。1 英検を目標に英語の学力向上、2 自身の英語の実力把握 3 英語学習のモチベーションアップ、4 入試優遇校(公立高校三

四一校、私立高校三九一校 一般入試二八六校・推薦入試四四六校)及び単位認定校(八七一校)の増加・・・英検三級以上取得の場合推薦基準の内申点に加算を認めてくれる高校もあります。そのため、中三の生徒は、第2回の英検(十月実施)までに最低三級取得を目標にしてください。最近では市や学校により、一学期の中間テスト及び二学期の中間テストを実施しない学校が二〇〇二年以降増えてきました。特に中二という学年は中だるみの学年といわれ、勉強に対するモチベーションが下がってしまいがちな時期です。そこで、中間テストがない代わりに英検を目標に勉強することをお勧めします。今回の受験を見合わせた生徒さんは、ぜひ第二回目の英検にチャレンジしてみてください。

創学舎では各学年の英検取得目標設定をしています。(内はチャレンジ級)

- 中一・五級 四級、 中一・四級 三級、
- 中三・三級 準二級 となります。

今後の英検受験日程は以下の通りです。準会場は全て大学受験部となります。

《第一回検定》

- 一次試験 準会場 六月十日(土)
- 二次試験(本会場のみ) 七月九日(日)

《第二回検定》

- 一次試験 準会場 十月十四日(土)
- 二次試験(本会場のみ) 十一月十二日(日)

《第三回検定》

- 一次試験 準会場 平成十九年一月二十七日(土)
- 二次試験(本会場のみ) 一月二十五日(日)

一 昨年までは英検対策は真前一日講座のみでしたが、平成十七年度より創学舎のオリジナルテキストによる英検対策講座(パスポート)をたちあげました。まず五級を手始めに、四級・三級と順次開講し、今回準二級を設置することになりました。これによって英検対策講座も五級から準二級まで全ての対策講座がそろいました。

創学舎のバックアップ体制も充実してきましたので、ぜひこの英検対策講座(パスポート)を利用して、英検に挑戦し、英語の力をさらにいっそう伸ばして頂きたいと思えます。

(白石)

まねしてみよう

私には一人の娘がいる。つえが五歳、下が二歳になったばかりである。下の子はおしゃべりをはじめたばかりで、人に伝わるのが伝わるまじがとにかく上の子のまねをして言葉を発する。言葉だけではない。とにかく何かから何までまね

をしよとする。上の子が転べば、下の子もまねして転ぶ。上の子が着替えをすれば、時間がかかっても一人で着替えようとする。そして、ふと気が付くと、明らかに上の子より早い時期にいろいろなことができるようになっていく。一般的に下の子は成長が早いといわれるが、我が家でもそのようである。

下の子はなぜ、何かを習得するのが上の子に比べ早いのだろうか。それは上の子と同じようにやりたいがために、とにかくまねをするからである。まねをするためによく観察する。そして、上手にできようができないが、おかまいなしに、まねをしまくるのである。何回もまねしまくる、つまり練習しまくることになる。自然と上手になるはずである。

サッカーやバスケットでも上手な先輩がいると、とにかくまねをしてみたりしたことはないだろうか。その先輩のよさを見つけ、よく観察し、まねをする。気付くと自分の技能も上がっている。まねと簡単にいうが、これが結構難しい。簡単そうに見えることも同じようにやろうとすると、できないことは多い。それでもまねして、まねようとしてチャレンジし続けていると、いつの間にかできるようになっていく。

さるまねという言葉を知っているだろうか。

「本質を理解できずつわだけまねること」と辞書にはある。いい意味では使われない言葉かもしれないが、さるまねでも結構難しかったりする。何かを身につけたいとき、とにかくまねするといつことにも意味はあるように思う。みなさんのまわりにもたくさんすばらしい

技能、人柄、人格を持った人がいる。もちろんそれは、自分から目を向けてみないと気付かない。みなさんのお父さん、お母さんに目を向けてみるのもよい。毎日、お父さんやお母さんがしてくれていることを観察し、まねしてみるのもよい。どれだけ大変であり、またそこにある皆さんへの想いに気付くかもしれない。私も一人の大人として、皆さんにまねされてはすかしくない人間になりたいものだ。(松永)

教育「名言」の紹介(17)

玉琢(みが)かざれば器(き)と成らず、

人学(ひとが)ざれば道(みち)を知らず。

解釈 宝石でも、磨かずに原石のままにしておいたら、真に価値のあるものにはならない。知れと同様、人も生まれた後に然るべく学習をしなければ、人間としての正しい生き方を知ることができない。

出典 中国・前漢『礼記(らいぎ)』

解説 中国の古典『礼記』の中の、特に教育について論じた「学記」篇の冒頭部分の言葉。教育の必要性または重要性を説く際に、よく引用される名言の一つである。

原文は、「一重否定を使ってより強調した言い方になっている。肯定的に言い換えるべし。」白石の原石は、磨くことによって初めて光り輝き、その真価を発揮することができる。人間も同じ

ように、学ぶことによつて初めて人間としての正しい生き方を知ることができるのである」といふような意味にならう。

原石を磨き、それを光り輝く状態に仕上げる、ということとは、原石に備わっているそのような素質を引き出すことであり、人も同様、学ぶこと、すなわち教育によつてその潜在能力が開発されることである、と解釈することが出来る。

「このような意味では、助成的教育観であると言える。しかし、「磨くこと」「学ぶこと」をある特定の価値観または目的意識に沿つた知識の修得プロセスである、と解釈した場合は、伝達的教育観とみなされよう。

いずれにせよ、人間にとつて「学ぶこと」がどのような意味を持ち、人格形成上いかに重要であるかを、見出しの言葉は、実に簡潔に言い表している。「学ぶこと」は、言ひまでもなくより善く生きるためである。また、「学ぶこと」じたいを楽しめるのが人間である。

『礼記』は、孔子を祖師とする儒家一派の教育科目といつべき「六芸(りくげい)」「礼・楽・射・御・書・数」の中でも、筆頭教科に当たる最も重要な教科の教科書である。特に儒教が国教化されてからは、直接的にすべての倫理、道徳、社会関係の教育活動に引用されて、今日にまで至っている。その教えは時間と空間を超えて、多くの人々によつて実践され、社会生活の

「道」(基準・方式)の一部になつていゝ、と言えよう。(アガトス教育研究所)

ネ「のいる幸せ」 3

「ネ」のいる幸せ」を書き始めてから、生徒の中にネ「族」がかなりいることが分かつた。いやいや、ペットは家族全員の判断で飼つ飼わなかが決まるのだから、ネ「一家と言つべきか。ネ」の話をするときの生徒の顔、ほんとうにうれしそうである。「ウチのネ」はね…。「もう一匹はね…。」と自慢話が続くのです。

さて、「ミキ」の話に戻ります。最近はやつてゐるのが「かくれんぼ」。これは、私とミキだけの遊びなのだ。エッヘン！リビングにいたミキが突然走り出す。私はそれを追いかけるわけにはいけない。すると、ミキがかくれる。ドアの裏とか、椅子の下とか。それを見つけてあげて、今度は私が逃げる番。ドアの裏に隠れて、音を立てたり、足を出したりすると、ダーツと突進してくる。見つかったら、また選手交代。なんことを、日曜日にとやっています。

そんなわけで、かわいくて仕方がないミキですが、少し不満なことも。まず、絶対にひざの上の上ってこない。だつとも嫌がる。それから、布団の中に入ってくれない。何年も飼つているのに一回だけ。あなたの「夢」はときかかれたら、「ミキをひざの上の上ってだつこして一緒にねること」と私は即座に答える。それくらい切望しているのです。でも、顔とか手とかはペロペロなめてくれるから、まあ許してあげるかと。

ここまで書いて思い出した！この前、ミキが私の顔をなめていたとき、カミさんがいった。「なめない！なめたら死ぬよ。」ガン！まさに、シヨックをつけた「マル子」状態！私は「おくされ様」？

「ミキ」の話が多くなりましたが、「タマ」だつて気に入っています。何といつても美しく年賀状は、ここ数年、彼女のアップ！まさに我が家の顔であります。十六歳になったのにまだまだ元気。この前は雷が鳴り出したときに、勇敢にも外へ飛び出して行きました。とにかく、自然の猛威が好きなのです。一方のミキは押入に入つてブルブルふるえています。

タマは、さらにすごい能力をもっています。最近はかなり衰えたものの、その跳躍力は並ではありません。時々、虫や小鳥が部屋の中に飛び込んでくる場合がありますが、そのときは狩人に変身します。あるときは、スズメが入りこんで、クーラーと天井の間のすき間(30cmぐらい)にとまりました。それをみつけたタマは、まるでムササビのごとく、そのすき間までジャンプ。一発でスズメをくわえてしまいました。

それを見ていた家族は、背筋がゾクゾクとしたようです。いつも獲物を捕らえたら、すぐに見せに来ます。決して殺しません。傷つけない程度に口にくわえています。で、私達がほめると離します。残念なことに、シヨックの余り死んでしまった小鳥もいますが、無事に飛び立っていった奴もかなりいます。

実は、五月二十八日の日曜日にも、同じことがありました。スズメを捕まえて帰ってきたのです。見るとほとんど動きません。だめだ。死

んでしまったな、と思いましたが、急いで、タマからとり上げると、足が少し動いています。手の平にのせていると、目が開きました。傷はありません。外へ連れ出すと、羽を少し動かします。「これは？」と思つて地面に置くと、無事逃げていきました。パチパチ。ネ「の話は今回でひとまず終わりです。来月号より親子関係再開です。(小林)



創学舎から本が出ました

受験生は読め！(合格のテクニック)【1】

勉強法・精神面のケアなどについて、創学舎講師陣が書いたものです。非売品です。希望者には無料で差し上げます。

愛の壁 お父さんお母さんあなたの愛は子供に届いていますか (著者 小林 惠白)

創学舎ニューズの編集責任者 小林が二十年間書き続けてきた記事の中から抜粋・加筆したものです。

浅野書店・ブックス鈴木・新星堂他 全国書店で発売中。

卒業や転校等で創学舎を離れる方にも、ご希望があれば、創学舎ニューズを無料でお送り致します。在籍していた教室までご連絡下さい。

